



爪ようじタワー 耐震性競う

熊本で高校生

高校生が爪ようじで作ったタワーの耐震性を競うコンテストが24日、熊本市西区の崇城大学であった。主催した工学部建築学科の村上泰浩教授は「熊本地震後、建築や耐震への関心が高まっている。若い世代が建築に興味を持ってくれる機会になった」と話した。県内16校から108人が参加。建築などの専門科と普通科に分かれ、ペアで作った爪ようじのタワー（高

さ50センチ以上、重さ8・5キロ以上）に重りを載せ、水平に揺らして、どこまで倒れないかを競った。

今年で6回目。村上教授によると、地震後、一時は中止も検討した。「開催して良かった。将来、耐震について学びたいという学生が増えてくれたらいい」

普通科の部で優勝した熊本北高校の野宮航太さん（17）は「地震を経験し、耐震について学びたいと思って参加した」と話した。

（池上桃子、写真は福岡亜純）

d デジタル版に動画